

2 型糖尿病に關与する遺伝子が解明

糖尿病の発症には、食生活や運動などの環境因子のほか、遺伝子多型が強く關与しており、遺伝的背景の解明が新たな治療法や予防法の開発につながると考えられる。本研究では、2 型糖尿病患者と糖尿病のない対象者の遺伝子多型を比較し、多くの人がつ遺伝子多型と個別の遺伝子多型を調べた。

2,657 人のヨーロッパ人を対象に全ゲノム解析を、そして 5 民族から抽出された 12,940 人を対象にエクソーム(タンパク質をコードする遺伝子情報)解析を行った。その結果、2 型糖尿病の遺伝的リスクのほとんどが個別の遺伝コードではなく、多くの人にみられる一般的な遺伝子多型に關連していた。さらに、2 型糖尿病の発症に直接關与する 12 の遺伝子が同定された。

今回の研究から、2 型糖尿病患者の遺伝的リスクはいくつもの遺伝子多型を反映していることが明らかになった。したがって、糖尿病の治療法や予防法を個別化するには、患者の環境因子だけでなく、遺伝プロフィールも考慮にいれる必要があることが示唆された。

出典 : Nature. 2016; 536(7614): 41-47